

各位

会社名 株式会社カイオム・バイオサイエンス
代表者名 代表取締役社長 小林 茂
(コード：4583 東証グロース)

第39回米国がん免疫療法学会での当社抗体を用いた研究成果発表のお知らせ

この度、弊社が難治性がんに対する治療用抗体として研究を進めている抗CXCL1/2/3/5抗体に関する研究成果が第39回米国がん免疫療法学会 SITC2024（開催地：George R. Brown Convention Center in Houston、開催期間：2024年11月6日（水）～11月10日（日））において発表されることを、お知らせいたします。

本研究の抗CXCL1/2/3/5抗体は、大阪公立大学大学院医学研究科癌分子病態制御学のグループによるスキルス胃がんにおけるCXCL1を起点とした難治性の腫瘍促進環境の構築に関する基礎研究をもとに、当該研究室との共同研究によって見出された抗腫瘍活性をもつ新たなモノクローナル抗体であり、本学会においては、以下のような内容により本抗体がスキルス胃がんなどの腫瘍免疫抑制性のがん種に対する新たな治療戦略になりうる事が示唆されています。

- ・ 抗CXCL1/2/3/5抗体の胃がん細胞株移植マウスモデルにおける抗腫瘍活性
- ・ 抗CXCL1/2/3/5抗体による腫瘍免疫抑制性細胞に対する抑制効果
- ・ 抗CXCL1/2/3/5抗体と免疫チェックポイント阻害剤との併用効果

学会発表の概要は下記の通りです。

Abstract number : 1419

日時：2024年11月9日（土）6:15 PM - 6:30 PM（予定、米国現地時間）

発表形式：口頭発表

タイトル：An anti-CXCL1/2/3/5 antibody breaks cancer-stroma paracrine network links and improve microenvironment beneficial for tumor growth

SITC2024 HP: <https://www.sitcancer.org/2024/home>

以上

<PXLRについて>

PXLRは当社と大阪公立大学八代正和准教授との共同研究により取得した抗ヒトCXCL1/2/3/5モノクローナル抗体にかかる当社プロジェクトコードです。

免疫チェックポイント阻害剤（ICI）によりがん治療は大きく変化しましたが、未だ奏効率は限られています。これは、腫瘍中には骨髄由来免疫抑制細胞（MDSC）や癌関連線維芽細胞（CAF）などの様々な免疫抑制性の間質細胞が含まれ、ICIの抗がん活性を阻害している事が一つの要因と考えられています。抗CXCL1/2/3/5抗体は、これら間質細胞の腫瘍組織への集積を阻害し、がん微小環境を改善させる事を目的としたがん治療抗体で、抗CXCL1/2/3/5抗体の投与により腫瘍中の間質を減少させ、ICIなどの抗がん剤の効果を高める事が期待されています。

<SITCについて>

米国がん免疫療法学会（SITC）は、がん免疫療法の科学とその応用方法を発展させることにより、新しいがん治療をリードする世界有数の学術団体です。現在、SITCには、世界42カ国の22の医療専門分野を代表する2,400人以上のメンバーがおり、がんの研究と治療に従事しています。

【本件に関する問い合わせ】

株式会社カイオム・バイオサイエンス IR担当

電話：03-6383-3561